

## 「Cullowhee Valley School」を訪れて

鳴門市立第一小学校 教諭 山田 美江子

### (1) Cullowhee Valley Schoolの概要

この学校は幼稚園～8年生までの生徒が学んでいる。幼稚園（年少と年長）は、3クラスで60名、ほかも1クラス20名から27名で学年3クラスあり、担任1名、3年生以下はアシスタントの先生がつく。全校で約600名といった規模の学校である。

- ・ノースカロライナ州西部山沿いの平野に位置している。
- ・WCU（ウェスタンカロライナ大学）より自動車です分の距離。
- ・校舎は平屋で7年前に建て替えられ、まだ新しい感じである。
- ・保護者の3割は大学関係者や社会的経済的に恵まれた人たちだが、残り7割の家庭は社会的弱者で、中間層がほとんどいないという珍しい構成  
その恵まれた3割に属する家庭の保護者が主にPTA活動をしている。



授業が終わると子どもたちは、地区ごとに分かれて黄色のスクールバスに乗り、帰宅している。低学年は先生が引率し、バスのところまで行っているようだが、高学年の子も同じバスで帰っていた。安全面や校区が広いことなどの影響があるのだろうが、入学後すぐからそうなのなら、1年生がなれるまで大変だと想像する。

3時がすぎると先生達もすぐ帰り支度を始めていた。仕事は家に持ち帰ってすることも多いようだが、学校にはあまり遅くまで残ることは少ないようだ。

### (2) 配属校との交流

まず、玄関に、歓迎の垂れ幕が用意されていた。それも日本語と英語で「藤本景子先生、山田美江子先生、

ようこそ、Cullowhee Valley Schoolへ」と書かれていた。玄関に入るとまずガラスケースの中は日本の5月人形や扇子などアン先生が集められた日本関係の品物、それになんと私が昨年6月にプレゼントした「一期一会」と書いた色紙も飾ってあった。まず晴れがましさと恥ずかしさと感動と複雑な感情でいっぱいになった。

廊下で校長のRon Yount先生に会う。子ども達を出迎え挨拶を交わしている。この状況は、どこの小学校でも同じとのことである。毎朝、国歌斉唱とアメリカ市民としての誓いを宣誓する。これもどこの学校でも同じであるという。どの学年でも真剣に取り組んでいた。

3月28日、Assembly "Celebrate America Celebrate Japan" という集会を持ってくれた。体育館の側面は、移動式の階段状の椅子席が用意されており、保護者やジャクソン州の教育長などの来賓の方が並ばれていた。コーディネーターの世羅先生と小野先生も招待されていた。アン先生が司会者であり、私たちは各学年の発表が次々で行われていくとのプログラムをいただいた。

まずは、幼稚園の子たちが印刷した星条旗を棟に掲げ入場。アメリカ国歌の斉唱。続いて紙を反対に向きを換え、日の丸を胸にして君が代が流された。それも2番まで演奏された。アメリカで君が代を歌うことになるとは、印象に残ったが。日本人とアメリカ人とでは、自分の国に関する感じ方、接し方考え方がずいぶん違っているようだ。次にジャクソン州の教育長、校長、副校長、カフェテリアのマネージャーのMrs. Annette Burnsさん、それに生徒会長Katie Crispさんの歓迎の挨拶並びにたくさんのプレゼントをいただいた。

7年生の阿波踊りは浴衣をいろいろなところから、かり集め、アン先生は、母親に何枚かぬってもらったとのこと。私たちが持っていった編み笠をかぶり、昨年度プレゼントしたカセットの音楽で踊ってくれた。

4年生のチェロキーの友好の踊り "Hey Yo Ganawah" は前日2年生の音楽の授業に呼ばれてそこで教えてもらっていた。私たちがいただいたバンダナを付け、子どもたちの踊りの輪に加えてもらった。プログラムの途中、ハンディキャップを持つ子どものなかで、自由



に動くことができるということで参加しているのだと思うが、3人の子が大型三輪車、訓練用の自転車に乗って踊りの前に登場するという場面があった。特別な驚きもなく、自然な暖かい雰囲気を受けている感じに、この学校でのこの子たちの存在感があるのだと感じた。

最後は6年生の踊りと役者、5年生の合奏による“The Stone Cutter”日本の民話を素材としているらしい。石切の「藤作」という主人公が、編み笠をかぶった僧の姿で現れたのだが、石切の作業をしている人には見えなかった。一生懸命仕事をし、だんだん太陽、雲、雨を降らす仕事など変わっていくが、最後は山の偉大さがわかり、元の石切に戻るという筋であった。舞台ではバレエダンス、パラソルのダンス、着物姿の踊りなども盛りだくさんで、音楽には「さくら、さくら」の演奏など日本的な音を出す工夫もなされていて、準備のほどに頭が下がった。

集会の最後私たちが感謝の言葉を言うとき、私は興奮でかなり混乱して準備していた事もいえなかったりしたのだが、わかりにくい英語にも耳を傾けてくれていた。

昼食は、学校のカフェテリアでとっている。子どもたちは、学年ごとに3グループに分かれ、席の確保のためか、時間に差をつけている。場所へは、担任が異動させていたが、子どもたちは好きなものを選んで、その分のお金をレジで支払っている。昼食後、アイスクリームなどのデザートをとるのも自由であった。28日の昼食は特別で、集会の時の挨拶でカフェテリアのマネージャーが言われてたとおり、全員に割り箸が用意されていた。子どもたちはなれない手つきで必死に口まで食べ物を運んでいるという感じではほえましかった。日本文化の理解に、準備と費用をかけていると感じた。

### (3) 配属校での授業実践と観察

3月27日、アン先生のクラスで藤本先生が用意してくれていた厚紙とストローを使って紙トンボを作って飛ばした。簡単に作れて遊べるので喜んでくれた。また、日本の伝統玩具としてだるま落としとけん玉を紹介する。特にだるま落としに興味を持ったようだ。けん玉も紹介した私より上手に裏の皿に乗せられる子が1名出現。

ポケモンカードがはやっているから日本のカードを持ってきてほしいとのことで用意していたのだが、ポケモンカードよりも英会話クラブの児童が書いた日英対訳の自己紹介カードや担任していた5年児童が作った飛び出すカードの方を興味を持って見てくれていた。やはり同年代の子どもたちの作品には関心があるのだと感じた。

3月28日、8:00から9:15までクリス先生担当の4年生に習字の授業をおこなう。教室はカーベットがしかれているので、朝登校してくる前から新聞を机の下におく。まず日本から用意してきた色紙、短冊、5年児童の書いた条幅作品の紹介をする。水書用紙を準備していたので班で交替に「一」「二」を書いてもらう。次に黒板を使って、「山」「川」の漢字の成り立ちを藤本先生とのTT形式で絵と文字を使って提示。書き順を押さえ、墨汁と半紙を使って書いて体験してもらった。子どもたちは、初めての体験であり、興味を持って書いていたようだ。上に古いワイシャツを反対に着るという準備をしてもらった。(図工の時など服を汚すおそれのある時に着るように学校に準備されているようだった。)墨汁を落とさないようにと何度も注意していたためか、下を汚すこともなかった。一枚の半紙しかなかったので大小取り混ぜて、山と川を書く。机間巡視すると、文字の形を追い、右から左へ書いている



子も見られた。一斉指導で「上から下へ筆を動かす」と強調したつもりだが、書き順をあまり押さえてなかったためにおこったことだろうと思った。

その後、大きな筆を準備していたので、4つ切画用紙を4枚張り合わせた用紙に「夢」と書いた。「夢には dream in sleep と hope in future の意味があるね。」と言ってみたのだが通じたかどうか。作品の右に自分の名前をサインし、印を押して仕上げる。子どもの作品にも空き地を見つけ、サインするようにさせた。

3月29日、8:00から9:00までアン先生担当の初日に行った A. G. クラスの子達と書写の授業をする。今回は藤本先生が T 1 になり、山、川、木、森など漢字と絵を結びつけるクイズのようにして紹介。後で水書用紙と墨汁を使っての練習をしてもらった。この教室は全面カーペット張りであったので長机に用意した習字道具で順番にトライしてもらった。その後、私が大筆で「道」と書いた。日本語の道には road の意味と人の進むべき道考え方などいろいろと意味があると伝えたつもりなのだが、「夢」も「道」も翌日にはドアのところなどに掲示してくれてあり、恥ずかしくもありうれしくもあった。

3月29日、1:15から2:15 ウェスト先生担当の7年生のクラスで、折り紙について教えてほしいということで二人で授業を行った。このクラスでは全員が折り鶴などをクラフト紙で折れるようになっていた。今までは分厚い紙で折っていたので、折りにくかったろう。私たちが持っていった金銀やぼかし入りの折り紙、千代紙などに人気が集まった。私は風船を、藤本先生は折り羽鶴の折り方を指導。7年生であり、今までの経験もあるので何とか作ることができていた。友達同士で教え合う姿も見られた。



アメリカの学校では驚くことに休憩時間がない。トイレも各自が担任に申し出て許可をもらっていている。さすがに低学年の教室には、トイレが教室内についているが。そうでなければ許可のカードをもらって用を足しに行くとか。日本では休み時間にトイレをすますようにと指導をするが、個人の必要に合わせるというアメリカの方が合理的なのか疑問が残る。

子どもたちは、授業時間がすむと次の教室にいつも移動していて忙しそうなので、片付けなどはする時間がなかった。体育の器具なども児童が来る前に教師の方で用意していた。日本の学校では、清掃時間があることに注目されるが、同様の考え方だと思う。

#### (4) 姉妹校提携と今後の交流について

所属校の第一小学校長が、4月に転任されたので GPS P の交流についても説明をする必要があった。それと、来年度、県の図工統一大会の研究校であり、準備等で忙しいため、姉妹校提携を結び、交流活動を続けられるのかといった疑問もでてきて、藤本先生とも不安な気持ちになったこともあった。しかし、鳴門教育大学の世羅先生、小野先生が訪問し、説明・助言くださったことなどにより、クリス先生持参の相手校校長のサインの入った提携書にサマリー会場で小松校長がサインし、2年間の交流の成果として Cullowhee Valley 校と姉妹校提携を結ぶことができた。

7月末にそのときの書類とともに、私が担任する4年生が書いた漢字や趣味、食べ物のイラスト、藤本先生の担任する1年生が学校行事についてかいた絵を郵送している。

今後の交流の予定としては、クリス先生から地元の Native American であるチェロキーや他の部族の伝説を紙芝居にして送ってくれると提案されている。クリス先生の通訳をされた住友さんから、「日本の民話を英訳した物語を持っているのでそれを使ってください。」といってもらっている。その物語は英語と日本語の紙芝居にきるのではないかと思う。

こちらからは、第一小児童の学習時間、好きな教科、放課後の過ごし方などのアンケート結果をグラフ化して持っていったので Cullowhee Valley 校の子どもたちの生活と比較してみたいとの話もあるので、今後は、知りたいことを率直に聞きあえるような交流ができればよいと考えている。



## アメリカ合衆国における社会科、ひいては総合的な学習に関する観察

鳴門市立第一小学校 教諭 山田 美江子

### (1) はじめに

今回のGPSの交流において、私はアメリカの社会科の授業に興味を持って観察したいと思っていた。Social Studyという教科は、第二次世界大戦後、アメリカ合衆国から入ってきた教科だと学んだ記憶があった。また、現在日本では総合的な学習が導入され、本格実施される時期にあたり、これも先進国であるアメリカ合衆国の総合的な学習に学びたいと思う。そして平成14年度から本格実施される総合的な学習への取り組みに生かしていきたい。

### (2) 授業観察

#### ① Fairview Elementaryを訪問

3月29日のCurriculum Fairのテーマは、"craft of writing"ということであり、それにそったプロジェクトが進んでいるようであった。この小学校はWCUの付属校的な色彩が強いということだが、今日本でも本格実施されようとしている総合的な学習をよい形で実践している学校だなと感じた。

学校に隣接した土地に充実したピクニックエリア、ワイルドエリアと呼ばれる自然体験施設を持っていた。小川が流れ、野鳥の音が聞こえるといった環境であり、WCUの先生方にも助言を得て作った施設とのことだ。2年生であったか、その中を歩き、観察しながら今回のwritingというテーマにそって詩を作っていた。また6～8年生はGlobeプロジェクトに参加しており、このエリアで水質や空気に関するデータを調べてワシントンDCに送っているとのことであった。円形校舎の真ん中にメディアセンターとして図書館が配置され、コンピュータも整備されていた。10,000冊の蔵書。また、6年生はアラバマ州のNASAヘトレイニングキャンプへ行っているとのこと。宇宙への夢も広がるであろうとうらやましく感じた。

私は社会科、特に地理や歴史に興味を持っていると伝えてあったので、4年生の授業に参加すればどうかと提案してくれた。各人の興味にあった授業を見せてくれようとする配慮をありがたく思った。4年生では

4つの本を選び、子どもがそれぞれの本にまつわるプロジェクトを展開していた。"The Lemonade Trick" "The Tales of the 4th Grade Nothing" "The Whipping Boy" "Night of the Twisters"という本を使って学習を進めていた。インターネットを使って騎士の武器について調べたり、トルネードに関して新聞や図書から調べてレポートにまとめていた。一番おもしろいと思ったのは、「レモネードトリック」の本からクッキーやジンジャーパンの焼き方に興味を持ち実際作ってみたという班の活動であった。またこの班では、おやつということから派生して、Herseyのチョコレートの中でどの種類が好きかというアンケートをしてそれをグラフに表そうと準備していた。

3月29日夕方、このFairview小学校のカリキュラムフェアの参観をさせてもらった。7、8年生の展示コースでは、環境問題を扱っていた。内容まではよくわからなかったが、川魚、雲、など身近な実証や調べ学習からの展示であったように感じた。また常時活動として水質検査を行いワシントンヘデータを送り、世界規模の環境調査に参加しているということであったが、生徒たちにとってもやりがいのある活動であろう。

3、4年生は、総合的な学習として取り組んだ自分たちのテーマごとに学習した本やインターネットの検索から学んだことをまとめ、ピラミッド型、さいころ型、箱庭、変形本の中に絵や写真文などでまとめているといった感じであった。あの4年生のハーシーのチョコレートの人気度を調べた班は、本物の粒チョコを使っ



たグラフを作っていた。また、2年生は劇という形で表現し保護者を前に学習の発表をしていた。

## ② Culowhee Valley School での観察

3月27日 11:15~12:00 Hall先生 6年 社会科  
米国の社会科の授業ということで興味を持って見学した。まず私たちが日本からきているということで、浦島太郎の民話をA4版7ページのコピーを20分ほどかけて読み、その課題に答え、できた人から席を離れ、円形に座りこの話についての質疑応答。日本地図を示し、私たちがどの地域の出身かという問いに答えた。四国、徳島の話をする。その後先週ロシアについて学習したということで、質疑応答。そのロシアについての学習も読み物資料を読んでそれに関する知識整理をするという内容の学習であった。子どもたちは、学習のマニュアルをよく理解し、まじめに取り組んでいたが、先の課題になかなか答えられずに円座する仲間に加わりたくそうな子どもが3人ほどいて担任に早くするように促されていた。社会科の授業も、州のカリキュラムにそって担任が資料を選んでいるためか、比較的自由に日本についての学習を取り入れてくれていた。ただロシア・日本とも読み物的教材を扱っており、社会科のなかで、リーディングの力をつけているように感じたのだが。

3月29日 11:00~11:30

Lora Cox先生 5年24名 社会科

カナダの人物についてグループで調べていく学習。カントリーシンガーのミネトバ、アイスホッケー選手James Hemingなど有名な人物をインターネット、本、雑誌、新聞などで調べまとめている。各班とも模造紙のような用紙を使って等身大の人物を描き、服装、人柄、特徴までも表現しようとしていた。グループによっては、粘土やビー玉のようなものでその土地の様子を



立体的に表していた。総合的な学習になっていると感じた。

アメリカのソーシャルスタディーという教科では、学習対象とする国の時代背景、地理的要因、文化的要素まで幅広く学習していくそうだ。また、Culowhee Valley校ではダンスや合奏などの表現活動が重視され、行事の時には保護者の前でも発表されている。

そこで、今回の訪問時メインとなった行事（総合的な学習のよい実践例でもあったが）を紹介する。昨年度第一小学校へおいでたアン先生は、来日前に「Celebrate America Celebrate Japan」という集会を勤務校で実施したいという考えを持っており、彼女の受け入れ校が第一小学校に決まると「是非、徳島の阿波踊りを見せてほしい」という希望のメールが届いた。そこで「アン先生の歓迎式で阿波踊りを踊ろう」と児童に参加を呼びかけた。阿波踊りの速に所属し、活動している児童に衣装なども用意してもらい、約30名が代表で踊りを披露した。それを見て、徳島の文化の紹介に使いたいと思ったとのことを話されていた。

今年、私たちが訪問したとき、この「Celebrate America Celebrate Japan」の集会をみせていただいた。アン先生は、8月の新学年が始まってまもなく「Celebrate America Celebrate Japan」の企画＝アメリカ合衆国と日本の文化の両方を尊重し祝う集会＝を職員に提示され、協力してくれる先生を募ったとのこと、音楽のFisher先生、体育のMincey先生の協力を得られた。日本について本やインターネット等で学習した生徒たちが、紙芝居や自分で調べた物を持って他の学級にいった読み聞かせや発表を行い、この集会への意欲を高めていった。また、メインロビーに日本庭園のミニチュアを作ってかざったり、日本について調べたことを掲示したりして、他のクラスや他の先生、保護者にも興



味を呼び起こしていったとのことだった。

はじめは、学習が遅れると心配した先生もいたようだが、あまり練習時間をかけず、以前の行事の再演なども取り入れたことと、生徒たちがこの活動から貴重な経験をしているということで協力体制が得られたそう。生徒たちも踊ることは好きな活動で、低学年のクラスからも練習に参加したいとの声も挙がったようで、こうした状況下、保護者、校長先生も全面的に支援してくれたことを伺った。

日本での経験、交流で得た物を土台として日本についての勉強を進め、周りの人も巻き込み、あの集会が成功したのだということに改めて感心した。このことは、日本で総合的な学習を進めるに当たっても参考になるのではないかと思う。

集会のプログラムだが、まずは、幼稚園の子たちが印刷した星条旗を胸に掲げ入場。アメリカ国歌の斉唱。続いて紙を反対に向きを換え、日の丸を胸にして君が代が流された。次にジャクソン州の教育長、校長、副校長、カフェテリアのマネージャーの Mrs. Annette Burns、それに生徒会長Katie Crispさんの歓迎の挨拶をいただいた。

7年生の阿波踊りは浴衣をいろいろなところからかり集め、作ってもらったりもしていた。頭には、私たちが持っていった編み笠をかぶり、アメリカ流にアレンジして踊ってくれていた。4年生のチェロキーの友好の踊り "Hey Yo Ganawah" は前日2年生の音楽の授業に呼ばれてそこで教えてもらっていた。私たちもいただいたバンダナを付け、子どもたちの踊りの輪に加えてもらった。Mountain Heritage Dayの祝日の時に踊り演奏したものの再演だということだった。6年生は "Tue Tue" というガーナの踊り、5年生は "The Black Nag" という中世イングランドの踊り、7・8年生による "Cowboy Cha Cha, Boot Scootin Boogie, Rebel Strut" というカウボーイの踊りは、圧巻であっ

た。ジーンズやカウボーイの皮ズボンなど思い思いの服装で、体育館じゅうを音楽に合わせて踊る姿に、アメリカの若者らしさを感じた。この学校のクロッキングチーム(タップダンスのようなもの)による "Ragtime Annie"、アパラチアのクロッキング、チアリーダーによる "You Make Me Feel Like a Woman" というダンスが続いた。これらのダンスは、アメリカ合衆国とゆかりの深い国のダンスであったり、その地方の伝統の音楽ダンスを表現していた。歴史やつながりを学習した上で、表現していることがわかった。

最後に "The Stone Cutter" 6年生の演技とダンス、5年生の演奏で構成されている日本の民謡調オペレッタ。これは音楽担当の先生が台本を手に入れ、踊りの振り付けも考え、アン先生の希望で「さくらさくら」の歌と合奏も取り入れ、週2回の音楽の時間、始業前後に指導されたそう。リハーサルは放課後に何度か行い、当日を迎えたとのことだった。

### (3) 終わりに

私の個人的な興味から、社会科の授業観察を希望し観察させてもらったが、アメリカ合衆国での社会科と日本での社会科のとらえ方はかなり違っているように感じた。一つの学校でも担当の先生の方によって、かなり扱い方が異なったが、一つの社会的(歴史的・地理的・公民的)テーマを学習するときも生徒の希望や考えを尊重し、自分たちで調べ学習していくスタイルであると感じた。そして何か形のある工作やレポート、ダンス音楽などの発表会などの形で発表していくような授業形態を見せてもらう機会に恵まれた。これは、総合的な学習の展開例であると感じた。

アメリカ合衆国すべての学校で、すべての先生がそうした総合的な学習をしているわけではないということも学んだが、よい機会を与えられた者としては、これからの教育へ生かしたいと考えている。

# グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト 米国現地研修ジャーナル (2001年3月25日 - 4月6日)

鳴門市立第一小学校 教諭 山田 美江子

## 1. はじめに

私は、2000年6月に第一小学校においでくれた Anne Loughlin先生を迎える側の担当者であった縁で、今回のGPSに特別枠として参加させてもらった。

初めて米国に行き、見る、聞く、感じることをすべてが新鮮で、今までのアメリカ合衆国について持っていた印象と異なることも多く、貴重な体験となった。私自身が実際に経験したこととそこから得た感想を述べていきたい。

## 2. 日々の記録

### 3月23日 (金)

午前中、終了式と教室席移動を済ませ、一年間学習や生活をともにした5年2組の児童との最後の時間。子どもたちは、私がアン先生のおいでる小学校を訪問することを知っていたので、「図工の時間作った飛び出すカードをおみやげにもって行って来るよ。」と話をし、別れる。子どもたちにどんなおみやげ話ができるかと思ひながら、同僚の先生に後をお願いし、藤本先生とともに、小学校を出発。13:25発の高速バスで大阪へ。宿泊予定のコロナホテルの場所がわかりにくく、人に聞いたり、地図を見ながら何とか到着。アドバイスどおり、トランクを関空まで送ってあって、本当によかった。17:00~19:00会議室で大阪広島鳴門3地区そろっての研修会。自己紹介と日程説明。

### 3月24日 (土)

10:00~12:00 昨日に続き、報告書の書き方の説明。今後の交流予定。昨年度の交流で姉妹校提携ができた学校の文書例をいただきと説明を受ける。ノースカロライナ州の教育事情についての話を聞く。ホテルを後にし、新大阪から関西国際空港へ。私は、初めての関空であり、広さと設備に驚いた。海外への旅は2回目であり、以前はバック旅行であったため、出国手続きなども初体験であった。16:25発のノースウェスト航空70便でデトロイトへ向けて出発。直後広島中心に大きな地震が起こったとのニュース。広島地区の先

生方、また広島にお住まいのある世羅先生の心配はいかばかりかと案じた。12時間10分の長い飛行も初めてであり、これからのことを思う緊張感と狭い中で過ごすのであまり眠れず。途中で日付変更線を越え時計を14時間逆戻りさせる。飛行機の窓から見えるデトロイトの街、工場らしき建物とびかびか光る自動車の整然と並んだ屋根を見つける。確か自動車工業で有名な都市だと思い出した。乗り継ぎの時間にアメリカでの初めての買い物。ジュースを買ったのだが、おつりの計算がよくわからず、店員さんを疑ったりしたが、結局合っているということがわかる。また、世羅先生が電話をかけ、広島被害があまり深刻でないことと教えてくださる。地区別に飛行機が変わり、私たちは12:55発ノースウェスト1574便でシャーロット空港へ向かう。空港では、ケーシー先生、ルイス先生、小野先生が出迎えてくださり、バンに重いトランクをてきばきとはめてくださる。車でアッシュビルをすぎて、WCUキャンパスにある Madison Hall までいく。広い道は延々とまっすぐで、夜には対向車も少なく、アメリカの広さを実感。途中で日本食の店によったのだが、お寿司と焼き肉を頼んだため、時間がかかり、量も多くびっくり。お肉は包んでもらい、出発となった。マディソンホール到着は、25日に日付が変わった頃であった。部屋割を聞き、鍵をもらって入室。早々に就寝。

### 3月25日 (日)

広く快適な部屋でゆっくりと睡眠をと思ったが、時差の関係か余りよく眠れなかった。

藤本先生と10時過ぎからキャンパス内を歩く。丘の斜面にそれぞれの建物が建っており、公園の中に大学があるように感じた。11時前には、学内の教会へ礼拝に集まってくる人々に出会った。あとでもう一つの教会の建物も見つけたのだが、その後質問するとキャンパス内には5つ、6つは教会があるとのこと。現地の人々の宗派が細かく違っているとのこと宗教に対する熱心さを感じた。図書館にも足を運んでみたが、その時間には開館していず、残念ながら中を見ることが



できなかった。休日に図書館があいていないのかと話し合っていたのだが、後で聞くと午後にはあいているらしい。

それにしても休日のためか学内を歩いている学生が少なく感じた。歓迎レセプションの会場への道すがら質問をすると、週末には学生は自宅に帰っていることが多いとのこと。それも10時間もドライブして他州にある自宅までという話に、改めて米国の広さを感じた。また、それまでの時間を使ってまで家族に会いに行くのか。16(?)才になれば割と簡単に自動車免許を取れるとのこと。コンタクトパーソンの Christine 先生、Anne先生とも親として子どもの運転のことを心配しておられた。若者は元気でそれぐらいのドライブは平気なのかもしれないが、週末に家族との団らんを求めているという事実にも驚かされた。

午後は、Belk Hallで行われた地元の小学校の児童の美術の作品展に参加。顔の形を一つの型としてモザイク式に移動させて中にいろいろな表情の絵を描いたデザイン画、ゾウの写真を使って周囲を色画用紙でサバナを表した絵、ウサギを食べたオオカミ（おなかの中にウサギがかかっている）の読書感想の作文がついた絵、蜂やブルドッグの紙粘土作品、エジプトのミイラの4層構造を段ボールで彩色した作品などが印象に残った。授賞式では、家族や先生が周りを囲む中、おしゃれをした子どもたちがうれしそうに賞状をもらい、記念写真に収まっていた。この情景は日本と変わりないと感じた。

夕方、歓迎レセプションが行われる。移動距離がかなり長く驚く。スモーキーマウンテンの山道をドライブ。山々が続くのだがそんなに急な感じは受けない。道路が広く高低差も少ない。リゾート地らしい湖畔の会場に到着。中では地元の市長さん、配属校の先生方、日本に留学したことのある方、通訳をしてくださった三枝子・トンプソンさんなどにお目にかかる。

Fairview 小学校の子どもたちがダンスを披露してくれる。その後教えてもらったのだが、ステップを覚えるのはむずかしい。子どもたちは熱心に教えてくれた。日本側は、鳴門地区らしく阿波踊りでお返しをする。久しぶりにつけた編み笠のにおいをかきながら、にわか連に変身しての乱舞。広島川上先生も初挑戦ということでお互いに打ち解け、仲間意識ができたように思う。

3月26日(月)

Fairview School 訪問。WCUのprofetional development schoolということで附属校的な色彩が強いとの話を聞く。Pre K~8年生まで783名が学んでいる。1学年が4クラスあり、丸い pod (豆のさや) と呼ばれる教室が続いている。Pre K~3年生までは、担任教師とアシスタントの先生2名で担当しているとのこと。壁がなく本棚などでしきられており、本当に a piece of pie の教室であると感じた。今回の訪問時は、29日夜に行われるCurriculum Fairと呼ばれる行事が近いので、それに向けての発表準備がそれぞれの学年クラスの授業で行われていた。

まず、驚いたことは、1, 2年生だと思うが、10名ほどであったか、クッキーと飲み物を食べていた。家庭の事情で朝食を食べられない場合は、学校が代わりに無料で食事をさせるとのことであった。日本なら、家庭への干渉だという意見や予算の問題などいろいろと問題になりそうだが、空腹の児童にとってはありがたいことであろう。

各学年の授業を一回り見せてもらう。今年Curriculum Fairのテーマはcraft of writingということであり、それにそったプロジェクトが進んでいるようであった。

ここの学校の特徴としてピクニックエリア、ワイルドエリアと呼ばれる自然体験施設が充実していた。小川が流れ、野鳥の声が聞こえるといった施設。その中を歩き、観察しながら今回の writing というテーマにそって詩を作っていた。また6~8年生はGlobeプロジェクトに参加しており、このエリアで水質や空気に関するデータを調べてワシントンDCに送っているとのことであった。また体育館では州内の体育教師が集まって実技の研修が行われていた。円形校舎の真ん中にメディアセンターとして図書館が配置され、コンピュータも整備されていた。10000冊の蔵書。また、6年生はアラバマ州のNASAヘトレーニングキャンプへ行っているとのこと。宇宙への夢も広がるであろうとうらやましく感じた。

私は、社会科地理や歴史に興味を持っていると伝えてあったので、4年生の授業に参加すればどうかと提案してくれた。学校側が各個人のそれぞれの興味にあった授業を見せてくれようとする配慮をありがたく思った。4年生では4つの本を選び、子どもがそれぞれの本にまつわるプロジェクトを展開していた。"The



Lemonade Trick" "The Tales of the 4th Grade Nothing" "The Whipping Boy" "Night of the Twisters"という本を使って学習を進めていた。インターネットを使って騎士の武器について調べたり、トルネードに関して新聞や図書から調べてレポートにまとめていた。一番おもしろいと思ったのは、「レモネードトリック」の本からクッキーやジンジャーパンの焼き方に興味を持ち実際に作ってみたいという班の活動であった。またこのグループではおやつから派生してHerseyのチョコレートの中でどの種類が好きかというアンケートをしてそれをグラフに表そうと準備していた。

現在日本で取り組んでいこうとしている総合的な学習の姿がこの学校では見られた。

午後 Smoky Mountain High School 見学。

校長より説明を受ける。築40年の校舎ということで新しい校舎を建築中である。929人の学生の男女比は半々、90%は白人で8~9%がチェロキーの人、あと1%はヒスパニック。72名の教員で全スタッフとして105人。60%の学生は自家用車通学。40%はスクールバス通学とのこと。コースは将来の希望に従って職業科、職業訓練校進学組、短期大学や大学への進学組の3コースがあるとのこと。入学後 curriculum guidance を受け、カウンセラーと相談し、授業を選択するとのこと。4つの小学校からの卒業生を受け入れ、基本的に高校入試はない。A. G. の才能教育を行っているクラスは、WCU大学と提携して高校で大学の単位を取れる授業も用意されていた。

校長先生の案内で教室を参観。到着はちょうど昼食時であり、学生は自由にしゃべるなどしていたが、チャイムの合図でそれぞれの教室へ。ろうかなどに残っている学生はいずれ予想外に授業を熱心に聞いていた。音楽室では、リズムに乗った軽音楽の合唱。歌の題はわからないが、2列目の学生は椅子の上のりに、音楽教師の指揮に合わせてのりに乗って合唱していた。家庭科や美術の教室では、5月にWCUキャンパスで上演するミュージカル“オクラホマ”に向けて衣装や舞台装置をつくっていた。最後に見た主役、二人の表情豊かな真に迫った演技は迫力があつた。私の印象の中にあつたアメリカ人の表現力の豊かさをかいま見たように思った。

職業コースでは木工ではチェスボードの製作、ソーラーカーの製作実験をしていた。実際に家を建てて、一般に販売し、その売上げ金を次年度学校で使うとのこと。このこともアメリカ的な合理的考え方からできていると感じた。

放課後、図書室で教員の方と茶話会。まずはコースの説明。1単位は90分の45回で修得。音、国、数、社と選べば月から金まで同じ時間割で90日間過ごすとのこと。日本人の私の感覚からするとあきないのかなという点と90日後、別の教科を学習し始めたときに忘れてしまいやすいのではという点が心配になるがそのような弊害があるのか、ないのか。

その後個人的に放課後の高校生達がどんなクラブに所属しているかを聞いた。水泳、ゴルフ、クロスカントリー、チアリーダーなど様々なスポーツクラブ、またコーラスコンサートバンド、天文学、演劇、エイズについて学ぶなどのクラブもあるとのこと。個人的興味に従って多様なクラブ活動に参加していることを知った。かなり地方にあるこのWCU地区においてもである。

WCUの副学長にお会いする。大学のホワイトハウスと呼ばれるHinds University Centerの立派な応接室でお話を伺う。今年秋から大学院のプログラムとして日本の学生4人を受け入れ、その学生に日本語の授業をしてもらう。また、日本から教員の交換だけでなく学生の交換も実施したいとのことであった。

3月27日(火)

いよいよCullowhee Valley Schoolへ向かう。朝7時30分にアン先生が迎えにきてくださる。Jackson Countyにあるこの小学校は、WCUキャンパスの一番近く、車で5分ぐらいの距離ですぐに到着。幼稚園修学前の3・4歳児のクラスから8年生まで(Pre K~8thまで)全校で600名在籍している。

まず玄関につき驚く。「ようこそ藤本先生、山田先



生」と日本語と英語で書かれた垂れ幕を用意してくれていた。玄関を入ると、ガラスケースの中は日本の5月人形や扇子などアン先生が集められた日本関係の品物、それになんと私が昨年6月にプレゼントした「一期一会」と書いた色紙も飾ってくれていた。暗れがましさと恥ずかしさと感動と複雑な感情でいっぱいになった。

廊下で校長のRon Yount先生に会う。子ども達を出迎え挨拶を交わしている。この状況は、どこの小学校でも同じとのこと。

8:00~9:00 Loughlin先生のクラス

初めて教室に案内されたのだが、ドアに浮世絵風のれんがあり、名前下にカタカナでアン・ロフリンと書かれたカードが張ってあった。昨年第一小へ訪問されたおりの名札を持ち帰り、使ってくれていたのだ。壁には4年生がプレゼントしたアン先生と書いたペナント風の作品が展示されている。一方の机には今年の私のクラスの児童が書いた寄せ書き、色紙も飾られていた。日本の紹介をあらゆる形でしようと工夫しているのを感じた。教室がアン先生の部屋であり、自由に装飾できるという強みもあるのだろう。まず、国歌斉唱と誓いを宣誓する。これはどこの学校でも同じであるという。どの学年でも真剣に取り組んでいた。

5年生の子たちと、藤本先生が用意してくれていた厚紙とストローを使って紙トンボを作って飛ばした。簡単に作れて遊べるので喜んでくれた。また、日本の伝統玩具としてだるま落としとけん玉を紹介する。特にだるま落としに興味を持ったようだ。けん玉も紹介した私より上手に裏の皿に乗せられる子が1名出現。

それとメールでポケモンカードがはやっているから



日本のカードを持ってきてほしいとのことと用意していたのだが、ポケモンカードよりも英会話クラブの児童が書いた日米対訳の自己紹介カードや担任していた5年児童が作った飛び出すカードの方を興味を持って見てくれていた。やはり同年代の子どもたちの作品には関心を持つのだなと思った。

9:00~9:15 Fisher先生の2年生のクラス 音楽

私たちの歓迎会(28日のAssembly)の時に子どもたちと踊りを踊ってほしいということチェロキーの踊りを教えてくれた。木琴や民族楽器の鈴のような楽器、太鼓などを使った合奏係りの子と踊りをする子とに分かれていた。

9:15~10:00 Tye先生の幼稚園のクラス

担任のTye先生とアシスタントの先生、それとこのクラスに在籍する女の子の母親の3名で教えていた。この母親は、毎火曜日にボランティアできているとのこと。20名程度の子もたちだが、先生が話をするときはとても静かである。まず円座の体型になり、私たち二人も交え、自己紹介をしてくれる。名前と好きなことを言い合う。そんなに恥ずかしがる子はいないが、あまり大きな声を出したり、自分をアピールをする子もいない。「水泳が好き。」「踊りが得意。」などと話してくれた。

その後、自由に活動を始めた。各コーナーには、鉱物を拡大鏡を使って見ることのできるケース、バッタやモグラなどを飼っているケース、台所仕事を体験できるようなコーナー、大きな地球儀、世界の様々な民族を描いたパズルなどを使って活動をしていた。自由に遊んでいる様子は日本の幼稚園児と変わるところは見られなかったが、教室内の活動であった。その日だけかもしれないが、園庭で遊んでいる姿は見られなかった。

日本の幼稚園と大きく変わっていたのは、一対一で勉強を教えていたこと。母親は3人ほどの園児にワークシートを使ってスペルをなぞったり、色塗りをしたりという活動の指導をしていた。先生は、単語カードを使って読みの指導をしていた。後で聞くところによると、多民族国家であるアメリカ合衆国では両親が正しい英語の発音などができないために子どもがうまくしゃべれないケースも有るとのことと、発音のチェックをすることも重要なのだそうだ。また、自由にパソコンを使っている園児もいた。